

1 中期学校経営方針

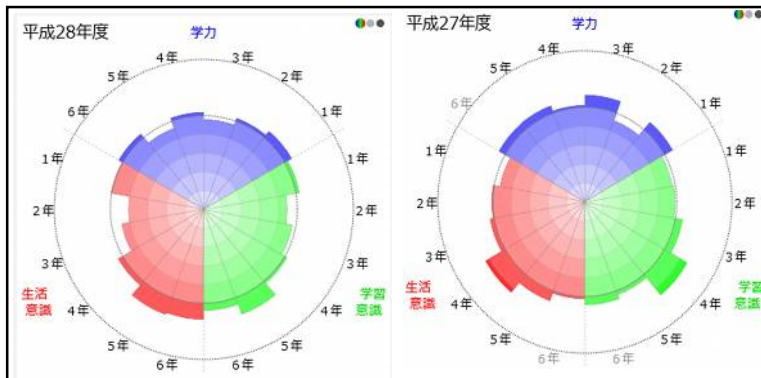
(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・共に生活する中で、自分のよさや友だちのよさを認められる子を育てます。(徳・公) ・豊かな体験活動を通して心と体をすこやかに育み、心を言葉にのせて伝え合える子を育てます。(徳・体) ・基礎基本の定着を図り、夢や願いをもって自ら学び続ける子を育てます。(知・開) 	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	担当	基礎的・基本的な知識や技能、思考力・判断力・表現力等を育成する取組をいっそう進め、粘り強く学習に取り組む姿勢や、新たな発見を大切にしようとする子を育てる。	重点研究として国語に取り組み、豊かな言語能力を身に付けさせる言語活動の工夫と、その環境づくりをしていく。国語で学習したことを他の教科の学習でも活用する、汎用的能力を伸ばすための研究を進めていく。また、児童の思考の手助けとなったり、思考を深めたりできるようなワークシートを工夫し、だれもが分かる授業を目指し、基礎的・基本的な力をつけることができるようにする。
	学習指導部		

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的に見ると、国語科では横浜市の平均的な学力よりやや高くなっているが、他の教科は横浜市の平均と同じくらいである。各学年で見ると、6年生と4年生がやや低くなっている。各教科とも、基礎・基本の力は横浜市の平均と同じくらいであるのに対し、活用力が低いという結果が出ている。生活意識調査の結果を見ると、家庭での勉強時間が市の平均よりもやや少なく、逆に、高学年では、スマートフォンや携帯に向かう時間が増えてきているようである。勉強は好きで、自分の考えを話し合ったり発表したりすることも好きと答える児童が多いが、授業内容がよくわからない時があると答える児童も25%程いた。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：全学年を通して国語に対する意識が高く、「言語の知識・理解・技能」や「書く力」も高い傾向にある。「読むこと」の力がやや低い。
- 算数科：全体的に、算数に対する意識が低い。「知識・理解」や「技能」の力は市の平均と同じくらいか、やや高い。しかし、「数学的な考え方」の力が低く、活用力も低い。
- 社会科：全体的にどの観点も市の平均と同じかやや下回っている。社会を好きだと感じている児童も他の教科と比べると低くなっている。
- 理科：どの学年も理科に対する意識が高まっており、理科が好きと答える児童が多かった。「技能」の力が高く、「思考・表現」の力がやや低い。

(3) 経年変化の状況と要因の分析 (学習・生活意識調査も含めて分析)

学校全体として概ね市の平均的な学力を身につけてきているものの、学年間の学力のばらつきがややある。子どもたち一人ひとりが、基礎・基本の力を身に付けられるように、全教職員が、日々の教材研究に励み、より分かる授業展開を工夫していかなくてはならない。生活意識調査では、勉強が好き、ノートを丁寧に工夫して書いている、自分の考えを発表していると考えている児童が年々増加しており、重点研を始め学習に向けての様々な取り組みが児童の学習へ向かう意欲を作っていると考えられる。今後、どの教科においても既習事項を活用する力を高めていくために、国語科を重点的に研究し、「読む力」を高めていきたいものである。また、どの子どもも、自信をもって活動に取り組んでいけるように、個に寄り添いながらよりよい授業改善を目指していきたい。

1 学年

- ・国語は、話す・聞く領域でも、特に聞く力が低い。まだ、学習に集中して取り組む習慣が身につけていないので、一つ一つの作業に取り組む時間を徐々に伸ばし、集中力を持続させる力をつけていきたい。そして、それを「聞く力」につなげていきたい。
- ・算数では、0～10までの数を数えたりかいたりすることはよくできている。これから、基礎基本の力を活用したり、具体的な操作をしたりして、いろいろな考え方ができるようにしていきたい。

2 学年

- ・国語は、どの力も市の平均を上回っている。特に、「かくこと」「ことば」の領域での力が高い。課題として取り上げるとすれば、「よむこと」において、何を聞かれているのか、どのように答えたらよいかを読み取る力を高めていくことである。大切な言葉や文章を確認しながら学習を進めていく必要があると考える。
- ・算数は、おおむね市の平均と同じくらいである。しかし、殆どの領域において、知識・理解の力が低い。具体的な操作を繰り返し行うとともに、学習活動のまとめや振り返りの時間をしっかりと確保し、定着を図る必要があると考える。

3 学年

- ・国語は、おおむね市の平均を上回っている。特に「言葉についての知識・理解・技能」と「書くこと」については、身に付いている。「読むこと」は、市の平均よりも低い。
- ・算数は、基礎・基本がよく身に付いている。一方、活用については、特に「量と測定」領域で、市の平均を下回っている。正しく課題を把握し、身に付けた基礎・基本の力を発揮できるように、丁寧に言葉の意味をとらえて読めるようにしていくことが必要と思われる。

4 学年

- ・国語は、どの力も市の平均を下回っている。特に「言葉についての知識・理解・技能」の力が平均よりかなり低い。漢字の読み書きなどの基礎・基本の力を身に付けることが必要と考える。
- ・算数は、おおむね市の平均と同じくらいであるが、数学的な考え方の図形の力が、大きく下回っている。丁寧に作図をする力を育てたり、具体物を使用しての技能的な習熟が進むよう、学習計画を立てることが必要と思われる。

5 学年

- ・国語・社会・理科においては、どの力も市の平均を上回っている。国語は、話すこと・聞くこと、書くことの力が大きく上回っているが、読む力がやや下回っている。説明的な文章や物語文など、様々な文章に触れ、読書を楽しむ子の育成に努めたい。
- ・算数では、基礎・基本は、市平均と同じくらいだが、活用力がやや下回っている。数と計算・図形領域の数学的考え方が低い。問題を解く手がかりとして、数直線や図、算数的活動を大切にしていく。

6 学年

- ・どの教科も、市の平均をやや下回っている。4教科とも、既習事項を活用する力が低い。また、自分の考えを的確に述べる力ももう少し必要と考えられる。国語では、話すこと・聞くこと・書くことの力が市の平均を上回っている。理科や社会は、身近な事象の学習に興味・関心を持っている。
- ・算数では基礎基本の定着を目指して、繰り返し復習したり、個に応じた指導を行ったりしていく。
- ・ノート指導では、自分の考えを価値づけ、学習したことを深めたりするで、自己肯定感をもたせる。

個別支援学級

- ・一人ひとりの実態に応じた内容の学習や反復学習をして個別の指導を大切にする。
- ・個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、子どもの実態に応じた適切なコミュニケーション手段を日常的に指導し活用できるようにする。
- ・子どもの実態に応じた分かりやすい言語環境の整備を行うようにする。
- ・少人数で集団活動の場を作り、自分の意見を伝えたり、友だちの意見を聴いたりする体験ができるようにする。